

DI NEWS

今月の医薬品情報

令和6年2月26日 No.354

目次

◆ 薬剤部からのお知らせ	・・・	1
● 採用薬に関する情報	・・・	4
◆ 薬剤部への問い合わせから	・・・	8



エンゴサクの花と、塊茎（延胡索の原基植物）

（引用元：東京生薬協会および日本新薬(株)山科植物資料館の各 web サイトより）

米沢市立病院 薬剤部 薬品情報管理室（内線：2402）

薬剤部からのお知らせ

◇ 要時購入医薬品の状況

採用薬や取り寄せ依頼のある医薬品でも下記の薬品は使用頻度が低い等の理由から
院内には在庫がなく、要時購入となっています。
必要な場合は、早めにご連絡ください。

< 内用薬 >

ゼフィックス錠 100	ゾーミック RM 錠 2.5mg	トフラニール錠 25mg
パーオデル錠 2.5mg	ビ・シフロール錠 0.5mg	ヒスロン H
プレマリン錠 0.625mg	ブロモバレリル尿素「ヨシダ」	ペルマックス錠 250μg
メスチノン錠 60mg	メタルカプターゼカプセル 100mg	
ユーエフティ配合カプセル	ユーエフティ E 配合顆粒 T100	ヨウレチン錠 100
ルジオミール錠 25mg	レキップ CR 錠 2 mg	レグテクト錠 333mg

< 外用薬 >

イムシスト勝注用 81mg	イムノブラダー勝注用 80mg	溶解液付
エストラーナテープ 0.72mg	サイプレジン 1%点眼液	スコピゾル眼科用液
ニコチネル TTS10	ニコチネル TTS20	ニコチネル TTS30
ネオシネジンコーワ 5%点眼液	ネリゾナソリューション 0.1%	
プリピナ液 0.05%	ホスミシン S 耳科用 3%	ロゼックスゲル 0.75%

< 注射薬 >

動注用アイエーコール 50mg	アキネトン注射液 5 mg	
アルギニン点滴静注 300ml「A Y」	ウロミテキサン注 400 mg	
H C G モチダ筋注用 5 千単位	エトキシスクレロール 1%注射液	
エポシン皮下注シリンジ 24000		
コートロシン注射用 0.25mg	ゴナピュール注用 150	
ジェノトロピン TC 注用 5.3mg	スプレキュア MP 皮下注用 1.8	
スミフェロン注 D S 300 万 IU		
ナベルピン注 10	ナベルピン注 40	
ピシバニール注射用 0.2KE	ピシバニール注射用 0.5KE	
ヒト C R H 静注用 100μg「タハ」	ヒト P T H 注 100 国際単位	
ブレオ注射用 15mg	ボトックス注用 50 単位	
ポリドカスクレロール 1%注 2mL	ポリドカスクレロール 3%注 2mL	
ミリプラ動注用 70mg		

< 検査用造影剤 >

E O B ・ プリモビスト注シリンジ	E O B ・ プリモビスト注シリンジ
---------------------	---------------------

イソビスト注 240 イソビスト注 300 ネオダルムゾル
 バリコンミール バリトップHD ボースデル内用液 10
 マグネスコープ静注 38%シリンジ 13mL マグネスコープ静注 38%シリンジ 20mL

< ワクチン・抗毒素・トキシイド >

乾燥弱毒生麻しんワクチン

トリビック(三種混合、沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合)

* 上記薬品の他に、院外でのみ処方可能な採用薬も院内には在庫がない。

* 注射用メソトレキセート 50mg、ランマーク皮下注 120mg、トブラシン注 60mg、
 ゾラデックス LA10.8mg デポ、は要時購入だが、希望多いので実際は在庫があることが多い。

◇ 各種業務の件数

● 外来・入院薬剤鑑別件数

	入院予約、外来、入院の合計
2023 年 1 月	1 ヶ月合計 : 386 件
2023 年 2 月	1 ヶ月合計 : 317 件
2023 年 3 月	1 ヶ月合計 : 373 件
2023 年 4 月	1 ヶ月合計 : 363 件
2023 年 5 月	1 ヶ月合計 : 342 件
2023 年 6 月	1 ヶ月合計 : 380 件
2023 年 7 月	1 ヶ月合計 : 373 件
2023 年 8 月	1 ヶ月合計 : 347 件
2023 年 9 月	1 ヶ月合計 : 357 件
2023 年 10 月	1 ヶ月合計 : 362 件
2023 年 11 月	1 ヶ月合計 : 389 件
2023 年 12 月	1 ヶ月合計 : 416 件

● 入院患者薬剤管理指導請求件数

	薬剤管理指導請求件数	退院指導請求件数
2023 年 1 月	739 件	246 件
2023 年 2 月	743 件	268 件
2023 年 3 月	772 件	317 件

2023 年 4 月	789 件	266 件
2023 年 5 月	794 件	287 件
2023 年 6 月	732 件	305 件
2023 年 7 月	742 件	325 件
2023 年 8 月	681 件	278 件
2023 年 9 月	804 件	302 件
2023 年 10 月	831 件	284 件
2023 年 11 月	748 件	299 件
2023 年 12 月	962 件	394 件

● 注射薬無菌調製件数・抗がん剤調製件数（外来・入院）・膀注調製件数

	抗がん剤調製(外来&入院)、 膀注(泌尿科)の合計	無菌調製
2023 年 1 月	98 件	0 件
2023 年 2 月	85 件	0 件
2023 年 3 月	87 件	14 件
2023 年 4 月	75 件	10 件
2023 年 5 月	83 件	0 件
2023 年 6 月	93 件	0 件
2023 年 7 月	96 件	3 件
2023 年 8 月	113 件	5 件
2023 年 9 月	93 件	7 件
2023 年 10 月	90 件	0 件
2023 年 11 月	116 件	0 件
2023 年 12 月	112 件	0 件

※中心静脈栄養輸液等の投与においてワンバック製剤以外の混注の必要があるものは、薬剤部において無菌調製しています。なお、オーダーは前日午前中までをお願いします。

●外来指導：2023 年 1 月 6 件、2 月 1 件、3 月 0 件、4 月 4 件、5 月 2 件、6 月 1 件
7 月 7 件、8 月 7 件、9 月 1 件、10 月 0 件、11 月 4 件、12 月 3 件

◇ 採用薬に関する情報

<添付文書改訂>

エリキュース錠、 リクシアナ錠、 プラザキサカプセル、 イグザレルト錠	2023 年 12 月 重大な副作用に急性腎障害を追加「経口抗凝固薬の投与後に急性腎障害があらわれることがある。経口抗凝固薬投与後の急性腎障害の中には、血尿を認めるもの、腎生検により尿細管内に赤血球円柱を多数認めるものが報告されている。」
ワーファリン錠	2023 年 12 月 重大な副作用に急性腎障害を追加「経口抗凝固薬の投与後に急性腎障害があらわれることがある。本剤投与後の急性腎障害の中には、血尿や治療域を超える INR を認めるもの、腎生検により尿細管内に赤血球円柱を多数認めるものが報告されている。」
フィルグラスチム BS 注、 ジーラスタ皮下注	2023 年 11 月 重要な基本的注意にがん化学療法における好中球減少症追記。「海外観察研究において、がん化学療法（単独又は放射線療法との併用）とともにペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）又はフィルグラスチム（遺伝子組換え）が使用された乳癌又は肺癌患者では骨髓異形成症候群又は急性骨髓性白血病のリスクが増加したとの報告がある。本剤と骨髓異形成症候群又は急性骨髓性白血病の因果関係は明らかではないが、本剤の投与後は患者の状態を十分に観察すること。」
アーリーダ錠	2023 年 11 月〔重大な副作用〕に「薬剤性過敏症症候群」追記。
アデノシン 負荷用 静注 60mg シリンジ「F R I」	2023 年 11 月〔重大な副作用〕に「アナフィラキシー」追記。
イクセロンパッチ	2023 年 09 月〔重大な副作用〕に「QT 延長」を追記。

プロペシア錠	2023 年 09 月〔重要な基本的注意〕に「自殺念慮、自殺企図、自殺既遂」を追記。
プラザキサカプセル	2023 年 09 月〔重要な基本的注意〕に「本剤が食道に滞留した場合、食道潰瘍及び食道炎があらわれるおそれがあるので、以下の点を患者に指導すること。・本剤を速やかに胃に到達させるため、十分量（コップ 1 杯程度）の水とともに本剤を服用すること。・食道疾患の症状（嚥下困難又は嚥下痛、胸骨後部の痛み、高度の持続する胸やけ等）があらわれた場合には、担当医に相談すること。」を追記。
セファゾリン Na 注	2023 年 09 月〔重大な副作用〕に「アレルギー反応に伴う急性冠症候群」を追記。
アトルバスタチン錠、 シンバスタチン錠、 ピタバスタチン錠、 プラバスタチン錠、 フルバスタチン錠、 ロスバスタチン錠、 上記を含む配合剤	2023 年 08 月〔重大な副作用〕に「重症筋無力症」を追記。
ミノサイクリン塩酸塩（経口剤、注射剤）	2023 年 08 月〔重大な副作用〕に「ループス様症候群」を追記。
ゾコーバ錠	2023 年 08 月〔重大な副作用〕に「アナフラキシー」を追記。
オブジーボ点滴静注	2023 年 07 月〔重大な副作用〕に「髄膜炎」を追記。
アクトヒブ	2023 年 07 月〔接種要注意者〕に「免疫抑制療法を受けている者など、免疫能が低下している者（本剤に対する免疫応答が低下している可能性がある。他の医薬品の電子添文に基づき本剤の接種を検討すること）」を追記。
アジルサルタン錠、 ラジレス錠、 イミダプリル塩酸塩錠、 イルベサルタン錠、	2023 年 05 月〔生殖能を有する者〕に以下を追記。 「妊娠する可能性のある女性：本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中

エナラプリルマレイン酸塩錠、 オルメサルタン錠、 カプトプリル錠、 ブロプレス錠、 エンレスト錠、 テルミサルタン錠、 バルサルタン錠、 コバシル錠、 リシノプリル錠、 ニューロタン錠、 上記を含む配合剤	に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。」
アサコール錠、 ペンタサ錠、 メサラジン錠、 リアルダ錠	2023 年 05 月〔重大な副作用〕に「中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、薬剤性過敏症症候群」を追記。
ノベルジン錠	2023 年 05 月〔重大な副作用〕に「胃潰瘍：出血を伴う胃潰瘍があらわれることがある。」を追記。
ビクシリン注	2023 年 05 月〔重大な副作用〕に「肝機能障害」を追記。
カナマイシン注、 リファジンカプセル、 イスコチン錠、 エサンプトール錠、 レボフロキサシン錠、	2023 年 04 月〔重要な基本的注意〕に「本剤を含む抗結核薬による治療で、薬剤逆説反応を認めることがある。治療開始後に、既存の結核の悪化又は結核症状の新規発現を認めた場合は、薬剤感受性試験等に基づき投与継続の可否を判断すること。」を追記。
オゼンピック皮下注、 リベルサス錠、 マンジャロ皮下注、 トルリシティ皮下注、 ビクトーザ皮下注、 ゾルトファイ配合注	2023 年 03 月〔重大な副作用〕に「胆嚢炎、胆管炎、胆汁うっ滞性黄疸」を追記。

タゾピペ配合注	2023 年 03 月〔重大な副作用〕に「血球貪食性リンパ組織球症（血球貪食症候群）：発熱、発疹、神経症状、脾腫、リンパ節腫脹、血球減少、LDH 上昇、高フェリチン血症、高トリグリセリド血症、肝機能障害、血液凝固障害等の異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。」を追記。
アセトアミノフェン（経口剤、坐剤、注射剤、および各種配合剤）	2023 年 02 月〔重大な副作用〕に以下を追記。「薬剤性過敏症症候群：初期症状として発疹、発熱がみられ、更に肝機能障害、リンパ節腫脹、白血球増加、好酸球増多、異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状があらわれることがある。なお、ヒトヘルペスウイルス 6（HHV-6）等のウイルスの再活性化を伴うことが多く、投与中止後も発疹、発熱、肝機能障害等の症状が再燃あるいは遷延化することがあるので注意すること。」
ボルベン輸液	2023 年 02 月 〔禁忌〕に「重症の敗血症の患者：患者の状態を悪化させるおそれがある。」を追記。
クロピドグレル錠	2023 年 02 月〔重大な副作用〕に「インスリン自己免疫症候群：重度の低血糖を引き起こすことがある。」を追記。
グリベック錠	2023 年 02 月〔重大な副作用〕に「天疱瘡：水疱、びらん、痂皮等が認められた場合には、皮膚科医と相談すること」を追記。
ロタリックス内用液	2023 年 02 月〔重大な副反応〕に「アナフィラキシー」を追記。

薬剤部への問い合わせから

Q: アンテベート軟膏は顔に使用できるか？	A: ステロイド系の軟膏剤として上から 2 番目の「とても強い」に分類されるので顔に使用することは通常ありません。
Q: レミケードを投与している患者に子宮頸がんワクチンは接種できるか？	A: 子宮頸がんワクチンのシルカードやガーダシルは不活化ワクチンなので接種できる。レミケード投与日と同日に接種してもよいが副反応や副作用が起きた時にどの薬剤が原因かわからなくなるので日をずらした方が望ましい（問合せ先：田辺三菱製薬）
Q: オキシコドン錠を 1 日 120mg 服用している患者がいる。レスキューで服用しているオキノーム散(オキシコドン散)が苦くて嫌だと言っている。代わりのレスキュー剤としてオプソ内服液(モルヒネ内服液剤)を用いる場合、一回あたりの投与量や味はどうか？	A: オキシコドン 1 日量 120mg はモルヒネに換算すると 1 日量 180mg に相当する。レスキュー 1 回分を 1 日量 180mg の 1/6 として計算するとレスキュー 1 回あたりのオプソ内服液は 30mg と計算される。 オプソ内服液の味は、モルヒネの苦味はあるが甘味や酸味で矯正はしている。またメーカーとして推奨するわけではないが水やお茶で薄めることもある。ジュースやドリンク類で薄める場合もあるが中には原因不明だが、モルヒネ量が低下する飲料（リポビタミン D）もあるので、水やお茶の方が無難。（問合せ先：住友ファーマ）
セフトリアキソンの添付文書の用量の欄には幼児についての記載がないが、幼児とされる 2 歳児への投与量はどうやって求めるか？	メーカーに確認したところ「先発品の申請時のテスト内容から判断して添付文書の小児の用量をそのまま幼児に適用してよい」とのこと。 （問合せ先：沢井製薬）
ニトロールスプレー 1.25mg は一度使用した後どのくらいの期間まで使用できるか？	メーカーによると、「実際の試験データはないが、使用後の瓶の機密性から考えて、一回使用した後も製品本来の使用期限まで使用できると考えられる。これは 45℃以上の高温を避け、蓋をするなど添付文書の保管方法を守った場合でのこと。」とのこと。 （問合せ先：エーザイ）

ベセルナクリームを使用している患者がいる。使用部位は陰部である。患者の使用部位とは異なる腕のところに結節のようなものができた。ベセルナクリームの副作用の可能性はあるか？	ベセルナクリームの副作用の可能性はある。 メーカーによると、「ベセルナクリームの副作用は使用部位かその周辺数センチの部位で起きると考えているが、取り扱いが不適切で無意識に患部以外にベセルナクリームを付着させていた場合、使用部位と異なるところに副作用が発生する可能性はある。 なお、このように、患部以外に本剤が付着することを避けるために、本剤は患者の活動が止まる夜に塗って朝には洗い落とすようになっている」とのこと。 (問合せ先：持田製薬)
Q：スタレボ配合錠やドパコール配合錠を1日数回に分けて服用している患者がいる。これららのレボドパ配合錠からドパストン静注に切り替える場合どのようにすればよい？	A：メーカーによると「パーキンソン病診療ガイドライン 2018 等から、経口で服用する薬剤のレボドパの量の 100mg がドパストン静注の 50～100mg に対応する。 切り替える場合は経口でレボドパ配合錠を服用した最終日の翌日からドパストン静注に切り替えればよい。 ドパストン静注の1日の投与回数は患者の状態に応じて決めるが基本的には経口でレボドパ配合錠を服用していた回数と同程度でよい。 なおパーキンソン病の初期段階ではドパミン神経細胞の機能が残っており、レボドパはドパミン神経細胞に取り込まれて長時間保持されるため、ドパストン静注の効果も長時間持続する。 パーキンソン病が進行するとレボドパがドパミン神経細胞に取り込まれることがなくなってくるためドパストン静注の効果の持続時間が短くなってくる。そのような場合はドパストン静注の1日量は変わらなくても投与回数を増やす必要がある。 更にパーキンソン病が進行してドパストン静注の効果がすぐになくなるようになってくると、1日量の増量や、持続点滴を検討することもある」とのこと。 (問合せ先：大原薬品工業)